

THE Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO-GREEN

東京グリーン

CHARTERED 1973

< 2018.05 >

BULLETIN

2017年7月～2018年6月



国際会長
アジア会長
東日本区理事
関東東部部長
クラブ会長

Henry J Grindheim「ともに、光の中を歩もう」(ノルウエー)
Tung Ming Hsiao「ワイズ運動を尊重しよう」(台湾)
栗本治郎「広げようワイズの仲間」(熱海)
長尾昌男「義務を果たして、クラブと関東東部の活性化を図ろう」(千葉)
浅見隆夫「親睦なくして奉仕はない」(グリーン)

会長 浅見 隆夫
副会長 西澤 紘一
書記 目黒 卓
書記 布上征一郎
会計 浅見 クミ子
会計 佐野 守
監事 柿沼 敬喜
担当主事 木村 卓司

5月 母の日

ちょうど母親がその子供を大事に育てるように、わたしたちはあなたが
たをいとおしく思っていたので、神の福音を伝えるばかりでなく、自分の命
さえ喜んで与えたいと願ったほどです。

(テサロニケの信徒への手紙 2:7, 8)

2018年05月 第一例会

EF/JEF強調月間

日時:2018年05月16日(水) 18:30～20:30
場所:千代田区和泉橋区民館 2階
千代田区佐久間町 1-11 TEL03-3253-4931
受付:森川君/司会:樋口君

開会点鐘 浅見会長
ワイズソング・ワイズの信条 全 員
聖句・お祈り 古平君
ゲスト・ビジター紹介 浅見会長
食事 (一言添えてニコニコ献金)

メンバースピーチ 紹介 浅見会長
柿沼敬喜 君
演題 「一期一会の仕事」

神田川関連報告 目黒君
YMCA 情報 木村君
Happy Birthday<5月青木メン 目黒メン 2名>
ニコニコ発表 浅見ク君
閉会点鐘 浅見会長

EF<Endowment Fund>

国際ワイズダム発展のための特別基金。

個人・クラブが記念すべき出来事、行事慶弔事などの折、寄付金を国際協会に送金し積み立てます。基金評議会が管理し運用する。US120 \$ 以上の場合寄付者名と記念事業等を国際協会が「ゴールデンプック」に記帳し永久保管します。

JEF<Japan East Y's Men's Fund>

東日本区ワイズ基金。

JEFは、東日本区ワイズ運動の継続的な組織と事業の発展のために、個人・クラブが記念すべき出来事、行事、慶弔事の際に、感謝の気持ちを表す拠金で成り立っている、東日本区独自の基金です。1997年に旧日本区の日本ワイズ基金等をもとに2,500万円の残高でスタートしました。これまで、ワイズ記念誌発行支援、



国際大会・国際交流活動の支援として通訳機器の購入、YMCAの支援としてはYMCA東山荘100年募金への協力などを行ってきました。寄付をすると、寄付者名とその理由を「奉仕帳」に記帳し永久に保存するとともに、区報にも掲載します。

(布上 記)

*再来月7月のキックオフ例会から会場は東陽町のYMCAホールに変更になります。ご注意ください。

【例会出席率】 在籍:18名 メーキャップ 1名 出席率 16/18 89%

出席:4月(メン15名、メネット1名、ゲスト1名)計17名

【ニコニコ】 4月例会 21,000円 累計71,000円

＜2018年04月 第一例会 報告＞

日時:2018年4月18日(水) 18:30~20:30

場所:和泉橋千代田区民館2階

出席:青木・浅見(隆)・浅見(ク)・柿沼・木村・古平・佐野・西澤・西本(東)・西本(晃)・布上(征)・樋口・平林・目黒・森川 ネット:布上(信)

今日の例会は久方ぶりではほとんどフルメンバーの出席です。3月の45周年記念例会で入会された西本晃子メン、森川正子メンも出席です。

今月の卓話は西澤メンの紹介で 梶本 章氏です。

梶本さんは西澤メンとは京大時代の先輩後輩の仲で、朝日新聞の論説委員、政治部政治面編集長、更に週刊朝日編集長、そして現職・(独)国立病院機構



非常勤理事を努められている。演題は「医療介護の2025年問題」～団塊の世代は生きのびられるのか～ という深刻なお話です。23 ページのプリントを配布しての講演です。梶本さん自身も「団塊の世代」のど真ん中にいらっやあって約 260 万人の同世代が誕生から結婚、団塊ジュニアの誕生、そして現役から定年、65 歳の前期、75 歳の後期高齢者へと日本の人口ピラミッドの大きな部分を占めていて、過去は高齢者を支えていた世代が今後は数の減った若者に支えられるという時代がもう目の前に来ているのです。

お話は 3 部に分かれ、①今ここにある危機＝医療介護の 2025 年問題 ②その解決の方向は→医療・介護の再編＝地域包括システム ③各地で始まっている医療介護多職種連携、コミュニティ形成の動き・・・となっています。

特に③の運動については梶本さん自身、川崎市・新百合グリーンタウンで医療や介護の連携の前提となるコミュニティ形成を目指して活動中との事でした。

内容は諸々の国策もわかりですが、我々高齢者にとっても、若者にとっても本当に深刻な問題ですので、常に関心を持ち続けたいと思いました。

5月12日の第77回神田川船の会開催に関して目黒実行委員長から確認事項と、4/25、5/9の会議の出席を要請しました。(布上 記)

＜2018年04月 第二例会 報告＞

日時:2018年4月11日(水) 18:30~20:00

場所:和泉橋千代田区民館5階

出席:青木・浅見(隆)・浅見(ク)・柿沼・佐野・高谷・西澤 布上(征)・布上(信)・松本・目黒・木村卓司(新主事)

報告・連絡事項

- ① 45周年リーダー養成献金の件
＜東京 YMCA へ記念例会献金贈呈 94,305円＞
- ② 富士クラブ 30周年報告 プリテン掲載/柿沼
- ③ 陽春の集い 3月プリテン掲載/4月に画像掲載
- ④ 2018年国際大会 韓国麗水市 不参加
- ⑤ 富士五湖クラブ 15周年記念例会 不参加/祝電
- ⑥ 東日本区大会登録状況の件 7名参加確認
- ⑦ 仙台アジア大会ロゴマーク募集の件
- ⑧ 村杉克己メンご逝去の件 3月29日
- ⑨ 塩入公之助メンご逝去の件 3月30日
- ⑩ その他 ・松本竹弘さん主事交代⇒木村卓司さん

3. 審議・協議事項

- ① 富士クラブ 30周年参加者会費補助の件
登録費半額補助(@4000-)
- ② 45周年記念例会の反省・評価について
- ③ 4月21日関東東部第3回評議会
出席 浅見会長・浅見会計・柿沼次期会計
布上ネット主査・布上書記
- ④ 塩入淑子さん、ネット会員としてクラブに残ります。
(布上 記)

Happy Birthday

5月 青木方枝(メン) 目黒 卓(メン)

クラブの円滑な運営のため、年会費をお納め下さい

(2017-18年度 会計:浅見クミ子)

<会計担当・口座番号 変更になりました>

みずほ銀行 駒込支店 店番号559 (普)1310439

口座名 東京グリーンワイズメンズクラブ



第3回 関東東部評議会

2018年4月21日(土) 13:30~16:00 東陽町コミュニティセンター (YMCAホール) にて標記の評議会及び次期クラブ役員研修会が開催された。



開会前に3月にご逝去された、グリーンクラブの塩入公之助メン、北クラブの村杉克己メンを偲び、黙祷を捧げた。開会は青木一芳書記の司会、長尾昌男部長の点鐘で始まり、青木清子さんの祈祷と続く。

長尾部長の年次報告、各事業主査の活動報告、グリーンからは布上信子がメネット主査報告を行った。

各クラブ会長報告、浅見会長が行い、まずは45周年記念例会への皆様のご参加に御礼を申し上げた。

関東東部書記、会計からの報告の後、休憩に。青木書記の進行で「議事」となる。

第1号議案「衣笠次期部長」の次は「金丸次々期部長」を承認。第2号提案「次期役員」を承認。第3号議案から第6号議案まで意義なく承認された。

評議会終了後続いて次期クラブ役員研修会となった。グリーンからは浅見次期副会長、柿沼次期会計、布上次期書記の出席。

衣笠輝夫次期部長より部長主題として「良いものを見つけ・つなげて・よくなっていく」とYMCAの新ブランドスローガンに呼応して掲げられた。

宮内友弥次期東日本区理事、大久保知宏次期地域奉仕・Yサービス事業主任、伊丹一之次期会員増強事業主任、小原史奈子次期国際・交流事業主任、山本剛史郎次期ユース事業主任、そして井上優子次期ワイズメネット委員長の方針をプリント配布された。グリーンは協力を惜しみませんよ。

次期グリーンクラブ会長は佐野守メンです。主題として「奉仕・健康・楽しいクラブライフを！」と掲げて頑張ります。皆様のご協力をお願いいたします。打ち上げ会の居酒屋では「痛飲」致しました。

(衣笠次期関東東部部長方針より抜粋)

部行事予定

- 1、部会 2018年9月29日(土)
会場:日本バプテスト浦和キリスト教会
- 2、評議会
 - 第1評議会 2018年7月14日(土)
 - 第2評議会 2018年11月17日(土)
 - 第3評議会 2019年4月20日(土)
 会場:東陽町YMCAホール

3、研修会

(区)クラブ会長・部役員研修会
2018年3月3日(土)~4日(日)

(布上 記)

第77回神田川船の会 開催

2018/5/12(土)
快晴の浅草橋に早朝8時に集合、船の会が開催されました。

グリーンクラブは45周年を記念して作ったお揃いの



緑の半纏を着用、女性陣は受付でお客さんをお待ちしました。今回は午前・午後3艘ずつの出船で総勢230名の乗船者。三浦屋さんの前に続々と「にほん語学院」の皆さん、ヤマハ関連OB会の皆さん、中大OB会の皆さん、千代田区親子学習の皆さんなどが時間通りに集合された。



前回、第76回よりこの浅草橋:三浦屋(神田川)から出発して上流へ、小石川で日本橋川へ入り、隅田川へ出て東京港をぐるり周遊、新豊洲界限を眺め晴海運河から隅田川へ戻るルートを設定、クルーズしました。

午前と午後では干潮・満潮の差があり、船の高さで通れない橋も出てくるが我々のチャーター船は心得ており、屋根の一部を下げたり

して、日本橋界限の低い橋の通過をした。その作業も一興ですね。築地の市場が豊洲市場に移転が確定し、環状2号線、築地大橋、豊洲大橋などなどの開通が楽しみです。

2020年の東京オリンピック関連の施設も着々整い、今後の2年間はこの東京港を巡る水運状況も劇的に変わっていくものと思われます。その時に我々「元祖:神田川船の会」はどのようにしていくべきか、・・・すでに他の本職のクルーズ業者がひしめいて船を運航させている状況を見て、グリーンクラブとしては逆に、船や人数を大きく、多くするのではなく、この船の会をスタートさせた35年前の気持ちに戻って、初心を忘れず、3艘の船をしっかりと満席にして丁寧な楽しいガイドを行い、皆さんに乗って良かったと思われる「お・も・て・な・し」をすることに尽きる、と考えます。



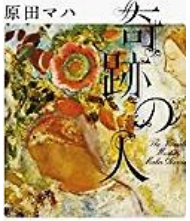
ご乗船の皆様ありがとうございました。

(布上 記)

ブレン図書館

YMCA コーナー

第46回「奇跡の人」原田マハ 双葉文庫 (2018/1月)



ヘレンケラーとサリバン先生との感動物語はよく知られている。国を日本の津軽に時代を明治中期に設定しなおし、主人公も介良れん（ケラ・レン）と去場安（サイバ・アン）として物語を再構築した小説である。津軽の名家、介良男爵の長女として生まれた才覚のあるれんは、幼少期に熱病に侵されて視覚と聴覚を

失った。その結果、言葉も話せない三重苦の少女として隔離されて養育された。本能のままに振る舞う6歳になったれんはまるで動物であった。男爵は、最低限の生活ができることを望んで、友人であった伊藤博文から家庭教師アンを紹介される。アンは、明治初期板倉使節団の幼年組として米国留学を経験していた。敬虔なクリスチャンであったホイットニー一家に家族として迎えられ、学業はもちろん、人間としての成長も鍛えられた。民主主義の理念を植え付けられたアンは、れんの家庭教師として迎えられ、気品と知性を持ち尊敬される人間に教育することを決意する。元来目の悪かったアンは、れんの気持ちがよく理解できた。体ごとぶつかる姿勢でれんと向き合った。不憫な子として家族がれんを甘やかすことから隔絶するため家族との葛藤があった。アンは、指文字での会話を根気よく教え込んだ。条件反射的には、善悪を理解させることまでできたが、自律的に意思を発するまでには至らなかったが、介良男爵は指文字でこちらの意思が伝えられれば十分だとアンを慰めるが、アンは人間として意思を表現できなければダメだと突っ張る。そして最後の場面で、すべてのものには名前があり、人間は意思の表現により初めてコミュニケーションが成り立つことを理解させることに成功する。元々聡明な頭を持っていたれんは、指文字を使ってすべてを理解し、かつ自己表現ができるようになり豊かな人生を送ることとなった。

わざわざ日本版ヘレンケラーの物語にしたのは、日本の家族制度、社会制度の問題提起をしたかったからであろう。障がい者の人権を無視し隔離することが常識であった明治時代、しかし現在でも障がい者は社会的お荷物だとの意識が残っている。また 独立した人間としてやるべきことを貫いたアンは、当時の女性の立ち位置を変革しようとしたに違いない。昨今、セクハラ問題がニュースになっているが、女性差別の意識は明治以来日本の社会構造の底流に今なお存在することを著者は訴えたのであろう。さらにこの小説では、第3者である盲目の三味線奏者キワを登場させている。れんは、キワを慕い親密な友人となる。津軽では、視覚障がい者であっても芸を身につけさせて生きてゆく手段を与える一種の社会福祉システムが働いていたことを意味している。キワとれんの友情は著者のオリジナルである。

1) 障がい者に対する社会的な差別（隔離政策）が存在したと同時に芸を教えて、糧を得る福祉システムが存在していたことも日本の特徴であった。

2) 差別の根底に日本社会の底流にある男尊女卑の社会構造を痛烈に批判している。 (西澤紘一記)

▼4月12日、「第28回東京YMCAチャリティーゴルフ大会」を千葉県成田市の「レイクウッド総成カントリークラブ」で開催し、31グループ 121名が参加しました。好天に恵まれ桜も楽しみながらプレーできたとの声もたくさん頂きました。支援金 500,000円はフレンドシップファンド(経済的困難を抱える子どもたち支援)や障がい児及び不登校児支援活動のために用います。



▼4月16日、子どもの「孤食」をテーマとした「第1回 下町こどもダイニング」を東陽町コミュニティセンターで開催いたしました。子ども14名、保護者4名の参加者と8名の調理ボランティア、東京YMCA保育専門学校の学生ボランティア4名で楽しい食事の時間を過ごしました。食事の前後には歌やゲームなどを学生ボランティアが子どもたちと一緒に楽しみました。下町こどもダイニングでは食事の時間だけでなく、子どもたちと年齢の近い学生ボランティアと一緒に遊ぶ時間も大切にしています。食べる幸せと、遊ぶ楽しさを子どもたちに広く伝えて、最終的には家族と一緒に楽しい食事の時間がもてるようになることを目的にしています。

▼4月26日、東陽町コミュニティにて「おもちゃ病院」が4月より開院いたしました。壊れて何年間も家に眠っていたおもちゃも「おもちゃ病院 江東」のボランティアによって復活いたしました。

4月は7件の治療でした。毎月第4木曜日 13:30~15:30の開院となります。大切な思い出のおもちゃなどありましたらお持ちください。

▼5月3日~5日、山中湖センターでボランティアリーダー対象の「プレキャンプ」が開催されました。プレキャンプは、キャンプの実体験を通し手法を理解すること、そして仲間との出会いの中から新たな気づきと意義を見出すことをねらいとして毎年開催しています。今年は、リーダー26名、OBOG3名、スタッフ8名、合計37名が参加し、分団での討議やチームビルディング、キャンプファイヤーなどを楽しみました。このプレキャンプに参加し、トレーニングを積み重ねた若いボランティアリーダーたちが夏のキャンプで活躍をします。

(主事 木村卓司 記)